

第69回通常総会を開催



北海道協会の通常総会の様子

北海道漁港漁場協会

北海道漁港漁場協会（会長・高橋昌幸神内村長）は、4月20日午後1時30分から札幌市内のホテルポルリスター札幌において、第69回通常総会を開催した。

冒頭、高橋会長から、「新型コロナウイルス感染症が高止まりの中、引き続き防止対策に留意いただきたい。」

昨春秋に道東太平洋海域で発生した赤潮への対策を当協会でも要望してきたが、国や道の迅速な対応に感謝しあけるとともに、被害地域の早期の復旧を強く願っている。

北海道の令和4年度の水産基盤整備関係予算は、補正予算と併せて事業費ベースで約463億円と前年度を上回る結果となった。関係の皆さまに感謝しあける。

新たな漁港整備長期計画が今年度から始まったが、計画の策定に当たっては、水産庁との意見交換会の開催など、本道の状況に合わせたよう努めてきた。

本道の漁業は高齢化、漁業従事者の減少など厳しい状況が続いている中で、漁業生産は1.17万トン、2千6百億円と上

今年度の事業計画は、水産基盤整備長期計画推進に向けた要請及び予算の確保、漁港整備運動の推進などがとられ、役員も改選では、会長に高橋昌幸神内村長、副会長には山英雄松前町長、村画の講演が行われ、115名が出席した。

坂井滋郎氏ご逝去

（一社）全日本漁港建設協会名誉会長の坂井滋郎氏が去る1月22日、99歳ご逝去された。

坂井氏は全日本漁港建設協会設立に尽力、昭和53年に水産庁を漁港部長を最後に退職後は副会長就任の後、会長職を21年間務め、平成12年から名誉会長職を2年間務められた。水産庁勤務時から全日本漁港建設協会名誉会長として逝去されるまで現役として漁港・漁場の整備に尽力され、この間、（社）全国漁港協会顧問、（財）漁港・漁村建設技術研究所理事長、（社）水産土木建設技術センター顧問を歴任された。

また、懇談会は東京都内の霞山会館で5月13日に2部制で行われ、1部

70名、2部60名が参加し、在りし日を偲んだ。

福屋正嗣氏ご逝去

（公社）全国漁港漁場協会顧問の福屋正嗣氏が去る4月11日、86歳で逝去された。

福氏は平成4年に水産庁を漁港部長を最後に退職、（財）漁港・漁村建設技術研究所理事長、セメントの社長を務められた。漁港・漁場の整備に尽力された。葬儀はご家族の意向により家族葬で行われた。

第71回全国漁港漁場大会 北海道開催第9回実行委員会を開く

念たバネル展等を行う。大会終了後は、湯の川の花びしホテル（大会会場近隣）で17時からレセプションを行い、大会の前日と翌日には道央・道南の5漁港（函館、北斗、鹿部、登別、古平）を会場に漁港視察を実施する。

また、実行委員会の予算は、北海道の補助金、函館市・北海道漁港漁場協会負担金、企業・団体からの協賛金等の収入を元に、新型コロナウイルス感染症対策に留意して各事業を行っていくこととなった。

水産庁人事異動

（四月五日付）【漁港漁場整備部への転任】整備課へ調整補佐、整備班担当兼漁政課課長補佐、外務省在ベルギー大使館、等書記号、塚本邦芳

令和4年度 全日本漁港建設協会 3年ぶりに会員を招集



定時総会会場の様子

（一社）全日本漁港建設協会岡貞行会長は、5月17日午後4時30分から浅草ビューホテルにおいて、令和4年度定時総会を開催した。

総会に先立ち表彰式が行われ、漁港漁場関係事業優良請負者として水産庁で表彰された1社に対する記念品の贈呈と、協会表彰受賞者として43名に対する表彰が行われた。総会では最初に岡会長から「心から嬉しく思います。令和4年度も新漁港建設業将来ビジョンで示した『漁業地域にお



中村裕之 中村裕之 中村裕之 中村裕之

るエッセンシャルワークとしての役割維持を、『漁港建設の健全な維持発展に向け、全力で取り組んで参ります。』と、会員の皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いいたします」と挨拶があった。続いて来賓として出席の水産庁漁港漁村整備促進課長連野から金田勝年副会長、北村誠吉副会長、青木一彰事務局長、進藤金日子議員、谷川一議員、宮内秀樹議員、長峯誠水産部長、公明党から横山信一議員など多数の国会議員の出席と挨拶があった。

懇親会は全日本漁港建設協会の長野章顧問による、乾杯の発声で歓迎に入り、同協会の林剛会長（香川県支部長）による中縮め挨拶をもって盛会のうちに終了した。

作品募集

2022 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

（公社）全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会は、2022漁港漁場漁村海岸写真コンクールを行うため、作品の募集を6月上旬から開始する。

このコンクールは、漁港・漁場・漁村・海岸に関する（働く漁民、四季や時間に変化する漁港、漁場・漁村・海岸の風景、漁村環境の実態等を広く知らせるとともに、水産業・漁村の役割や重要性、漁港・漁場・漁村の整備促進の必要性について理解を求め、毎年開催している。応募要領の概要は、次のとおり。

◆応募作品
・未発表の作品で漁港・漁場・漁村・海岸に関するもの（働く漁民、四季や時間に変化する漁港、漁場・漁村・海岸の風景、漁村環境、生物の生態、漁村の暮らし、漁港や漁村の祭り、催しなど）

◆賞状
・作品はカラー版以上のカラーまたはモノクロプリントで組写真可（自撮り写真は除く）
・自然な姿でデジタル加工で修正した写真などは不可

◆締切日
令和4年8月22日

◆入賞作品
・特選1席 農林水産大臣賞（1名）
・特選2席 水産庁長官賞（1名）
・特選3席（公社）全国漁港漁場協会賞、全国漁港漁場協会賞、全国漁港漁場協会賞、全国漁港漁場協会賞

◆賞状
・特選1席 農林水産大臣賞（1名）
・特選2席 水産庁長官賞（1名）
・特選3席（公社）全国漁港漁場協会賞、全国漁港漁場協会賞、全国漁港漁場協会賞



多くの人が献花に訪れ坂井氏を偲んだ

多くの人が献花に訪れ坂井氏を偲んだ

多くの人が献花に訪れ坂井氏を偲んだ

多くの人が献花に訪れ坂井氏を偲んだ

多くの人が献花に訪れ坂井氏を偲んだ